家庭数

一中 PTA 通信

2016 10 Vol.6

武蔵野市立第一中学校 PTA
会長　関口直子
〈URL〉
http://www.musashino-city.ed.jp/~gakkou101/others/pta.html
〈E-mail〉　first.jr2016apr@gmail.com

【本号の内容】
第５回運営委員会 報告
・挨拶と議事の要約
・PTA 会員向け連絡事項

【予告】第６回運営委員会
11/2 (水) 9:15～ 大会議室

1. 第５回運営委員会 報告

10 月 12 日(水)　大会議室　9:15～
校長、副校長、PTA 会長ほか役員・各委員会委員 22 名
＜司会＞副会長

1. PTA 会長挨拶（要約はｐ2）
2. 校長挨拶（要約はｐ2）
3. 活動報告・予定の発表（各委員会：詳細は右欄）

◎所感・連絡事項等　※カッコ内は発言者

〈1〉（副校長）
・生徒会の投票準備に立ち会い、投票年齢が 18 歳になったこともあり、こういうところから関心を高めていってほしいと感じた。
・12 月に音楽ホールでルーマニアのピアニストの演奏を聞く。（2 学年対象。保護者席が用意できるかは未定）
・授業力を高めるべく教員どうしで切磋琢磨している。
・他、校内の様子など

〈2〉（２年学級委員）
・給食試食会参加多数。
・お手伝いとしての協力員は不要ではないかとの意見もあった。
・協力員の人数を確認して一般募集の人数を決めるという提案もあった。
〈参考：応募の内訳〉
H26：協力員 9、一般 12、学級委員 6、計 27
H27：協力員 12、一般 11、学級委員 6、計 29
H28：協力員 17、一般 12、学級委員 6、計 35

〈3〉（文化委員）
・12/4（日）武蔵野公会堂　PTA フェスティバル～コーラスのつどい～　出演順決定。一中は 10 校目 14:40 から。

〈4〉（校外委員会）
・夏休み生活指導ポスターの出来がとてもよかったので季節を問わないテーマのものを校内に掲示した。

〈5〉（役員会）
・一中 70 周年実行委員会の委員９名が決定した。来年１月の運営委員会から正副委員長が出席する。学校内にも推進委員会が立ち上がり、地域コーディネーターの方も交えて協議をすすめている。（会長）
・70 周年記念式典・祝賀会は平成 29 年 10 月 28 日（土）
・PTA 室のプリンターを買い替えた。（副会長）

各委員会報告・予定

行事参加（学校・PTA・地域）、自主企画の運営

一年学級委員会
9/7　役員選出話合い：学級連絡網を使って連絡。
9/13　白馬交流会：白馬交流会の打合せ。
10/11　白馬交流会：先生から日程決定の連絡。
11/2の白馬交流会に向けて案内配布と回収の実施。

二年学級委員会
9/30　給食試食会：11:50～13:30（数学室）。35 名参加。桜堤調理場３名。
10/11　桜堤調理場給食試食会：学級委員２名参加。
10/13　給食用食品選定委員会：北町調理場。学級委員２名参加。

三年学級委員会
9/27　「卒業を祝う会」お知らせ作成。
9/29　第六回定例会：卒業を祝う会記念品について。
10/12　「卒業を祝う会」お知らせ印刷予定。
10/18　「卒業を祝う会」お知らせ配布予定。
10/27　第七回定例会：卒業を祝う会記念品について。

広報委員会
特になし

文化委員会
9/13　第二回 PTA コーラス運営委員会
9/30　楽譜印刷配布：PTA 室
10/1　第四回定例会：コーラス練習の段取り、各種係の報告。
10/12～　コーラス練習：毎週水･金　音楽ホール 16:15～17:45
10/17　第三回 PTA コーラス運営委員会：12/3 リハーサルの順番を抽選で決定。学校紹介文提出。

校外委員会
9/９　P 連夏休み生活指導ポスター：作品の返却とお礼を青野先生から生徒へ。
9/９　青少協一小地区委員会：来年の新年子ども会どんど焼きの分別手伝いを引き受けた。
10/7 青少協一小地区委員会出席
10 月中　校外委員だより「Face to face」発行準備。

選挙管理委員会
9/9、10　互選会出席者選出の話し合い：1、2 学年保護者。（視聴覚室、図書室）
9/10　第五回定例会：互選会について。[裏面へ]

選挙管理委員会

9/20　第２号選管だより配布。（候補者選出）
10/1　　互選会：候補者 20 名出席。（図書室）
　　第六回定例会：今年度の反省。次年度への引継ぎについて。
10/11　第３号選管だより配布。（役員内定）。
10/19　第４号だより配布予定。（役員決定）。

＜運営委員会　挨拶＞

会長　関口　直子

10 月５日、武蔵境のスイングホールで、市立中学校 PTA 連絡協議会研修会が行われ、今夏開催されたリオ・デ・ジャネイロ 2016 パラリンピック競技大会に、車椅子卓球の選手として出場した、吉田信一さんをお招きして「挑戦への軌跡～なんとなくから世界へ～」というテーマでお話しいただきました。

パラリンピックが終わったばかりのご講演ということもあり、現地での試合や練習の様子、生活のことなどホットな話題を多くの写真とともにお伝えいただいたと同時に、なかなかわかりづらいパラリンピック競技大会の障がい区分によるクラス分けなどについても詳しくお話しいただき、パラリンピックをより知るためのいいきっかけになったように思います。

前半は、主にリオでの大会、競技についてのお話でしたが、後半はなぜ吉田選手が車椅子卓球に挑戦するようになったのか、その経緯から今に至るまでをお話いただきました。

吉田選手は 17 歳のとき、高３の始業式の前日にバイク事故によって脊髄を損傷、以来車椅子での生活を余儀なくされました。吉田選手は現在 50 歳なので、33 年間、そうした生活が続いています。車椅子卓球に出会ったのは、29 歳のときで、歩けなくなってからおよそ 10 年過ぎてからのことだったそうです。

高 3、17 歳というまさに青春真っ盛りの時に、そんな重い障がいを背負いどんなにか打ちひしがれたか……と思いきや、吉田選手はご自身のことについてとても淡々と話されていたのが印象的で、なかでも「事故の加害者もある意味で被害者、もう気にしてほしくない。私は健常者と障がい者、２つの人生を生きることができている。障がいにも意味はある」という言葉に、私は大きな衝撃を受けました。

重く辛い出来事からも目をそらさず逃げないこと。そして、しっかりそれに向き合って受け止め、前を向くということ。

子どもたちの将来は順風満帆であってほしいと願うのが親心ですが、彼らの人生において仮にそういうことが起きたときに、吉田選手のような生き方ができたら素晴らしいなと強く感じた講演会でした。また、このように力強い生き様を感じさせてくれた吉田選手の講演を、市内中学校にお子さんを通わせる多くの保護者の方々と共有できたことをとてもうれしく思っています。

＜運営委員会　挨拶＞

充実した１か月半

校長　若槻　善隆

早いもので２学期も１か月半が過ぎました。前回のＰＴＡ運営員会から約１か月ですが、この間、たくさんの良いことがありました。

オリンピック・パラリンピック教育の関係では、バルセロナオリンピックの水泳で金メダルの岩崎恭子さんのご講演を聞くことができました。金メダルに触ることもでき、生徒たちにとって貴重な体験となりました。また、先日の中間テスト終了後に、スウェーデンの民族音楽鑑賞教室を行いました。こちらも、実際にスウェーデンの民族楽器を演奏する機会に恵まれた生徒もいました。

この１か月で一番うれしかったことは、市内中学校陸上競技大会での一中生の活躍です。女子は見事、準優勝になりました。男子も１点差の第４位。市内で唯一陸上部のない一中にとってまさに「快挙」でした。一中生の秘めた力を発揮できたように思います。これは、３年生が１，２年生を力強くリードしてくれた賜物でもあります。１，２年生にとって、来年に向けて、よい刺激になりました。

また、生徒会役員選挙もありました。いよいよ、生徒会も３年生から１，２年生にバトンが渡される時期になってきました。そんな中、先日、ここまで生徒会長だった渡邊さんと話す機会がありましたが、「あと半年の中で、私たちができることはサポートしていきたい」と話してくれました。３年生の後押しも受けながら、１，２年生が一中の良き伝統を受け継ぎ、新しい風を吹き込んでくれるものと期待しています。

セカンドスクールという、１年生にとって大きな行事もありました。天候に影響される日もありましたが、日程を変更して臨んだ八方尾根トレッキングは、素晴らしい天気に恵まれ、白馬三山だけでなく遠くハヶ岳や富士山まで望むことができました。コンバインに乗って行った稲刈りも大変貴重な体験になりました。私はセカンドスクールの引率で訪ねることができませんでしたが、２年生の職場体験も充実していたようです。２年生からは「とっても楽しかった」という声をたくさん聞くことができました。

さらに、先日、英語弁論大会があり、３年生の庄司さんが出場しました。英語のスピーチも素晴らしかったのですが、身振り手振りを加えて発表する姿は、本当に立派でした。スポーツ面だけでなくこうした文化面でも活躍する一中生を誇らしく思いました。

最後に、昨日、一小の２年生が地域探検の一環として、一中を訪ねてきました。一中の校舎の中を案内したのですが、昨年１年生の時にお世話になった現１年生の顔を見て、本当にうれしそうにしていました。武蔵野市では、「小中連携教育」「小中一貫教育」についての検討が進められています。そうした中、小学生と中学生が良好な関係を築いていることはとても良いことだと思います。「小中連携教育」「小中一貫教育」について、今後、保護者の皆様にもご意見をうかがうことがあるかもしれませんが、その節はよろしくお願いします。